

小澤洋介、三戸素子、P. ヤング 友の会ニュース No.20



1999年もついに師走を迎えました。
充実したコンサートシーズンだったこの秋、お聴きになった会員の
皆さまからのお便りで、その一部をもう一度お届けします。

「小澤洋介ベートーヴェンチェロソナタ全曲演奏会」 友の会会員 三戸 公

10月31日 東京文化会館・小澤洋介、ティモシー・レーベンスクロフト演奏会

楽譜にあくまで則し、一音たりとも違えることなく、演奏しなければならぬ。当然のことである。その当然のことを絶対的に重視し、どこをどのように間違えて弾いたか、にこだわったとき減点主義におちいり、音楽は音楽でなくなる。

楽譜を作曲家の感情・意図に則して、その楽譜がいかなる音の世界を、描き出しているかを演奏しなければならない。だが、作曲家の創り出した世界は、本人ではないのでそのまま再現することは出来ない。そこで、一音一音ゆるがせにすることなく、徹底的に楽譜に則して演奏家が演奏家の世界を展開するのである。

それは、すべてのジャンルの芸術家にとって、それぞれに同じである。同じ対象に向かい、その対象に徹底的に則して表現して、その表現物が人によって、全くことなる作品になるのと同じである。学問だって、同じ対象に対して、それを把握して全く違った学説が生まれるのである。

小澤洋介はベートーヴェンから、どんな世界を創り出して聴かせてくれたか。ポピュラーなベートーヴェンしか聴いたことのない私に、どんなベートーヴェンを聞かせてくれるか。

あのプログラムにある曲の手引きは、それぞれの曲に

何の知識もない私にはとても有効だ。ほう、そんな曲なのか。だが、演奏が始まれば、もうそんなことは何の関係もない。そこには、音の世界があるだけ。

第1・第2の二つの楽章、ベートーヴェンの様々な可能性が何の重苦しさもなく、軽やかに繰り上げられる。惹き込まれはしない。第3楽章、充実した、力強く、しかも華やかでさえあるベートーヴェン。だが、まだ惹き込まれはしない。

第4・第5楽章。気付けば、私は金縛りにあったように、ベートーヴェン＝洋介の音の世界の住人になっていた。巨大な洋介がチェロを駆使して、どっしりと坐りながら阿修羅のように踊っていた。その世界は耳を失った魂の芸術家ベートーヴェンによってのみ開示される世界であり、他のいかなる領域の芸術によっても表現することの出来ない世界であった。

あの感動はひとり私だけのものではあるまい。若き日、トスカニーニとフルトベングラーの「第5」がほとんど同時に発売され、聴き比べたあの時以来の、いやこれまで私の聴いた音楽の中で最も深い感動を与えたものであった。ソナタ全5曲を一曲として聴かせた洋介のベートーヴェンは凄い。

音楽評論家は、洋介のベートーヴェンをどのように聴いたであろうか。そんなことは問題ではない。だが、真に凄いものを凄いと評することが、あらゆる領域でほとんどなくなりつつある。

「感激のチャリティー・コンサートを有難う！！」 友の会会員 外谷千春

サンクト・フローリアン三重奏団 秋恒例の骨髓バンクキャンペーン

11月11日与野産業文化センターにて、骨髓バンクキャンペーンコンサートは、最終日を迎えました。

調律の都築氏は、サンクト・フローリアン・トリオの皆さんの演奏と人柄にすっかり惚れ込み、会場選びからPRに至るまで奔走してくれました。このコンサートは、普段はあまりクラシックは聞かないが、骨髓バンクのことなので来てみたら、音楽が良くて、以来彼らのファンになってしまったという方、逆に、音楽を聞きに来たら、骨髓バンクの事を知ることが出来たという方など様々です。かくいう私も、譜めくりの役を頂いてから、クラシックに目覚め、「こういう素晴らしい演奏家達がいて…」とバンクの話をする事もできたのです。

前日の骨髓バンク東京の会主催「新宿モノリスの昼休みコンサート」は、短時間でも充分楽しめました。患者さんからのメッセージも心に残るものでした。

そして、埼玉でのコンサート当日、ベートーヴェンの傑作「大公」はピツィカートが心臓の鼓動のように感じられ、第三楽章のアンダンテ・カンタービレは本当に天使の歌声が聞こえてくるような美しさ。ドヴォルザークの「ドゥムキー」は訴えかけるような冒頭、牧歌的な安らぎ、民俗的なリズム、あらゆる情景と感情が交錯し、圧巻の終結となりました。更にアンコールは私にとっても思い出深い、大好きな「エンターテイナー」だったので！会場から出てくるお客様達がみんなきらきら輝く喜びの笑顔をしていたことは言うまでもありません。三戸さん、小澤さん、フィリップさん、今年もごころう様でした、この時間を共有した皆さんは色々な思いを胸に抱いたことでしょう。本当にどうもありがとう！！ Thank You！！

9/28クライネス・コンツェルトハウス《モーツァルト》Vol.7

三戸素子&クリスティナ・ヴェナ演奏会

友の会会員 津金秀臣

前略

先日のコンサートは華麗というか、壮麗というか、兎に角素晴らしかったですね。冒頭から燦然と輝くようなヴァイオリンとピアノの合奏に「あっ」と息を呑みました。

私たちは最前列に座っていたので特に印象が強かったのかもしれませんが、あのとき二人の演奏家の周辺が光り輝いていたのが視えた様な気がしました。「音楽は素粒子を振動させる」と誰かが云いましたが、それが光のように見えるのかも知れません。

孔子は「気は詩によって起こり、礼によって立ち、楽によって立つ」と云ったと聞いていますが、音楽が「気」の最たるものであることは真実でしょう。

また「作曲家と演奏家は同格である」と云われますが、三戸さん達の演奏は、作曲家の意志を引き出そうと懸命に打ち込んでおられるのが演奏を通じて私達の肌に伝わって来ます。

CDをヘッドフォンで聞いていたのでは、この感動を味わうことはできません。このことについては本当に、紹介して下さった三井千恵子さんに感謝しています。

草々

三戸素子のヴァイオリン雑話 その8

今年「レッド・ヴァイオリン」という映画が話題になりました。会員の皆さまの中にも、ご覧になった方がいると思います。私自身はチャンスがなくてまだ観ていないのですが、観た人たちから（洋介氏を含む）面白かったという話を多々聞きました。

17世紀イタリアで楽器製作者が万感の思いを込めて、死んだ妻の血をニスに混ぜて(!)自らのヴァイオリンに塗りこめる、という「レッド・ヴァイオリン」誕生のシーンからこの話は始まるのですが、私は何とロマンティックに、万人が感情移入できる設定を創り出したものだと感心しました。けれど、別にこんな黒魔術的な効果がなくても、どんな楽器でも300年も生き続けると、ほとんど一つの生命体と感じられるものだと内心では思っています。

今まで世界中で造られた何万という楽器が皆そうなるというわけではありませんが、様々な思いや情熱がかたむけられ、受け継がれて来たものは、多かれ少なかれそれだけの存在感を持っています。

「レッド・ヴァイオリン」では文化大革命のころの中国で、すんでのところで焼かれそうになる場面があるそうです。現在、世紀末の東洋の国、日本で私はイタリア製の古いヴァイオリンを弾いていますが、はたしてこれはこの楽器にとって黄金期と言えるのでしょうか。楽器の証明書に「かつてパガニーニがこの楽器を所有していた。」とありますが、私にはその時の輝きには及ばなくても、できる限りの最高の瞬間を共にすることしか出来ません。また反面、いま身近に作られている楽器などを見ていると、これがあと何百年も生き続け、魂を吹き込まれていく可能性があるのだと思うと、これまた責任感がわいてくるのです。

**コンサートのご案内****12月15日(水) 《モーツァルト》シリーズ第7弾**

横浜イギリス館 ¥3500 ハラヤミュージックエンタープライズ 03-3587-0218
クライネス・コンツェルトハウス《モーツァルト》Vol.6
～弦楽四重奏曲集～

詳しくは同封のチラシをご参照ください

12月18日(土) 小澤洋介/チェロの語るクリスマス。

「小澤洋介のクリスマスにちなんだお話とチェロ名曲選」
小金井キリスト教会 0422-52-0594 3:00pm 開演入場無料
当日台湾地震被災者のための自由献金があります。

12月21日(火) 蜷川有紀朗読会に小澤洋介ゲスト出演!

恵比寿ガーデンルーム 15時/19時(2公演) ¥10,000
お問合せ/チケット 大東新社 03-5413-5751

朗読とともにバッハのチェロ無伴奏組曲を演奏する予定。

1月18日(火) 小澤洋介・大宮光陵高校招待演奏会

ブラムス：チェロソナタ第1番ホ短調 Pf:青池春美

2月5日(土) 三戸素子、クリスティナ・ヴェナ演奏会

ブダペスト・リスト記念館

2月27日(日) クライネス・コンツェルトハウス

東京文化会館 ¥3,500 ハラヤミュージックエンタープライズ 03-3587-0218
ラヴェル：ヴァイオリンとチェロのためのソナタ
パークレー：クラリネット、ホルン、弦楽四重奏のための六重奏曲
ヤナーチェク：弦楽四重奏第2番「ないしょの手紙」

三戸素子/山田耕司/二宮隆行/小澤洋介/山根公男/藤田乙比古

友の会、ただいま会員 約250名

2000年まであと数日、友の会の会員も約260名にまでなりました。当面の目標300人を目指し、新会員のご勧誘また、会員のご継続、どちらもよろしくお願い致します。

年会費 一口 1,000円

郵便振替口座 00260-1-13926

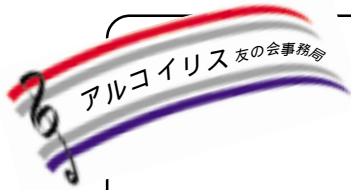
加入者名：

「友の会 小澤洋介・三戸素子・フィリップ・ヤング」

上記の口座までお振込ください。

また、名前の下の数字は会員有効期限年月です。
切れている方は同封の振込用紙で、ご継続の手続きをぜひお願い致します。

友の会ニュースでは、皆さまのコンサート
のご感想や自己紹介、また素朴な質問等の原
稿を随時募集しております。



小澤洋介、三戸素子、P. ヤング 友の会ニュース No.19



11月に名古屋の友の会会員、サクト・フローリアン演奏会を企画

来る11月13日(土)、名古屋在住の会員、若杉太香子さんが、サクト・フローリアンの演奏会を企画、主催することになりました。こうして、マネージメントにはまったく素人であり、ただ音楽を愛する一個人が、行動をおこすということは、昨年、八ヶ岳高原音楽堂コンサートの原動力となった三井千恵子さん以来で、とても素晴らしいことだと思います。

その若杉さんにこのたびのコンサートのきっかけ等を伺ってみました。

Q. コンサートを企画するきっかけは?

若杉 サクト・フローリアン三重奏団は、名古屋ではまだ一度も演奏したことがないときき、ぜひ名古屋の人にも聴いてもらいたいと思ったからです。

Q. いままで、こういった企画等をされた経験はありますか?

若杉 いいえ、私は看護婦で、特別クラシックにくわしいわけでもありません。突然のことで、周囲の皆もびっくりしています。

Q. 彼等の演奏を知ることになったきっかけは?

若杉 5、6年前、岐阜で小澤洋介さんのチェロの会に行ったのがきっかけです。当時、別にクラシックのファンでもなく、そのコンサートのチラシの写真に興味をひかれたから行ったのです。

Q. それはまた、なぜ写真なのですか?

若杉 6年前に亡くなった主人は商業カメラマンで、長いことニューヨークにおり、そして名古屋に帰ってきた人でした。その彼がとても写真に対して真摯で、私もそれに影響されて写真・アートに関心がありました。ふだん目にするチラシ、特にクラシックの人の写真はよくないものが多く、いつも、何でこんな写真を使うのかしらと思っていましたが、その中で、小澤さんの写真には目をひかれ、こんな写真の人なら良いかもしれないと思って行ったのです。

Q. それ以来、彼等の演奏を聞くようになったのですか?

若杉 東京でのコンサートが多いので、岐阜、山梨あたりで演奏会がある時、仕事の都合が許せば聴きにいきました。サクト・フローリアンの演奏は、昨年11月の八ヶ岳コンサートがはじめてです。そしてその日こんどのコンサートを思いついたのです。

Q. 看護婦さんというお仕事は、大変だと思いますが…。

若杉 今は名古屋記念病院で、癌と免疫疾患が専門。もう20余年看護婦をしています。生と死との戦いの中での人間同志のふれあいが、私にとってとても貴重でやりがいがあります。でも夜勤もあり、けっこう体力も使います。勤務をはなれると、芸術という異空間に身をおいてリフレッシュします。21才を頭に3人の息子がいて、皆わけのわからない音楽を聴いていますが、どうも家族全員音楽が好きみたいです。

Q. 最後に今度のコンサートにむけての抱負をひと言!

若杉 はじめてなので、どこまでできるかわかりません。周りの人々に支えられながら、やっています。でもあの昨年の八ヶ岳のコンサートの感動が、名古屋で少しでも再現できたら、と願っています。

「9月16日、清里オルゴール博物館コンサートを聴いて」 友の会会員 三井千恵子

八ヶ岳山麓は秋の色が深まり、山桜の葉は既に紅葉が始まった。此処、清里萌木の村オルゴール博物館、恒例のミートス室内合奏団のコンサートは、この季節に定着し、満席となって開演の時を待った。

私は最前列左側、ヴァイオリンの三戸さんの譜面台の楽譜が読めてしまいそうな席。気迫のこもった弓が飛んできそうな気配の位置。開演を知らせるオルゴールが鳴り終わると、演奏者は今日はホールの後方の扉から中央まっすぐステージに入った。演奏にはいる前に三戸さんから本日の曲目の解説がなされる。(これはクラシックの知識のない私にとってとても嬉しいことで、とても楽な気分ので音楽の世界に入っていける。然し演奏家にとっては厄介なことであるかもしれない、と思っている。)

最初の曲ベートーヴェンの弦楽四重奏曲「ラズモフス

キー第3番」は数年前、他の場所で彼らの演奏でワクワクしながら聴いた記憶があり、その時の印象がとても強く残っていた。なかなか聴ける曲ではないので、今回はどうしても聴きたく思い、他の予定をキャンセルして、友の会の友人達を誘って参加した。

音楽家は瞬間に消え失せる大変なものを創造している。魂を時には飲み込み、そして癒し、五感の底まで刻み込まれる永遠のものでもある。・・・と常々思うことである。私はこの曲が始まった時も、まるで初めて聴く感じでその世界に引き込まれていった。第二楽章のチェロの音も、とても興味深く、また珍しく、・・・改めてこのような曲であったと感嘆。楽章が進むにつれて演奏者の高調が聴衆に伝わり、ベートーヴェンの円熟した黄金期の作品と云われる所以と合いマッチして、壮大な華やかな曲は終わった。その瞬間、夢から覚め

裏につづく

前ページより

たような一瞬、息をついて大きな拍手が沸き上がった。

二曲目の大曲モーツァルト弦楽五重奏曲 KV516 はヴィオラがもう一つ加わり（ヴィオラの二宮隆行さんの人気も中々である。あっ！長髪を短くしたっ惜しい！とても似合っていたのだ）友の会ニュースで指摘のあった曲である。天長節を歌った経験のある年代のわたくしは心持ち緊張した感じで、第一楽章の中に入って行った。しかし、たちまちその緊張はほぐれて、優雅な音の世界に心を委ねることが出来た。ホール全体を包み込んでゆく演奏、素晴らしい

空間がそこにあった。問題のメロディーは第三楽章でもう、これ以上はないぞという、やさしいやさしい妙なる響きとなって流れ、終楽章を導いて行った。

暫くして興奮の渦巻くような拍手を以てコンサートは終わった。今回は「友の会会員」の関係者も多く、遠く山梨市からH氏のお嬢さん、甲府からのS氏、彼は10月31日小澤洋介氏、ティム氏のベートーヴェン・チェロソナタ全曲集に既に心を馳せて、チラシを握っていた。地元自動車修理工場を経営するA社長夫妻も別れを惜しんで、素晴らしかった・・・と暗い木立に吸い込まれて行った。

ティムさんてどんな人？

10月31日東京文化会館において行なわれる、小澤洋介、ティモシー・レーベンスクロフト、ベートーヴェンチェロソナタ全曲演奏会のピアニスト、通称ティムさんの特集です。

<小澤洋介談>

私とティムとの出会いは、ちょっと運命的でした。

今からかれこれ17、18年前、ザルツブルクのモーツァルトウム音楽大学に入学しようと入試の日、不安な面持ちで試験会場へ。順番を待ち、前の人達が次々中へ入り、弾き終わって出てくる。だんだんと自分の順番が近づいてくる。緊張は最高潮。そこへやっぱり同じようにヴァイオリンで受験する日本人女性らしい学生が意気揚々と教室へ入っていった。うまくいったのだろう、このくらいお茶の子サイサイとニコニコしながら出てくる、余裕のある人もいるものだなあ、などと考えているうちに自分の順番だ。

「名前は？」

「ヨースケ オザワです。」

「ドイツ語は大丈夫かね??」

「はい」

「それでは弾いてみたまえ」

そこで、持参の伴奏譜をピアニストにわたす。

実はこの時の伴奏者がなんとティムだったのでした。彼は、ちょうどウィーンの音大を卒業してモーツァルトウム音楽大学の専属伴奏者となったばかり、ちなみに前記のヴァイオリニストが素子さんでした。

現在、彼は故郷のイギリスのロンドンに住み、「イギリスピアノ三重奏団」というサンクト・フローリアンのようなピアノ三重奏団を主宰し演奏活動を行っています。奥さんのマリアンネさんは、フランス人のチェリストで私の同門、ザルツブルクで一緒に勉強していました。そして双子の小学生の息子と娘の4人家族です。

彼のお兄さんはイギリスで有名なシェークスピア俳優（最近テレビドラマなんかにも出演しているそうです）妹さんはジョッキー（騎手）、義兄は画家で、姉はたしか作家、そして彼が音楽家なのでユニークな兄弟です。

彼と一緒に行動してとにかく、どこへ行っても苦労するのが、彼の肉食主義。16才の時学校で屠殺場を見学してショックを受けて以来、生き物は殺したくないということから、肉魚は口にしないということ、つまり厳格な??お坊さんっていうところでしょうか。（確かに京都に行ったときは、湯豆腐や、精進料理があって本当に苦労しました。）皆さん、例えば車で移動中、ファミリーレストランに入ったとして、どれだけのものがOKでしょうか？先日ジョナサンではトマトソースのスパゲッティーだけでした。（和食もほとんどカツオのだしが使っています。）

とにかく、いまだにこんな人いるのっていうくらいオールド・ファッションの生粋のイギリス紳士の一面と、イギリス特有のユーモアのセンス、とにかく、食事以外では素晴らしいパートナーです。

友の会ニュースでは、皆さまのコンサートのご感想や自己紹介、また素朴な質問等の原稿を随時募集しております。



コンサートのご案内

10月10日(日) サンクト・フローリアン三重奏団

ロサンゼルス南カリフォルニア大

ドヴォルザーク：ドゥムキー 他、

10月31日(日) PM7:00 小澤洋介/レーベンスクロフト

東京文化会館 ¥5000 ハヤマミュージックエンタープライズ 03-3587-0218

ベートーヴェン：チェロソナタ全曲演奏会

11月8日～11月11日 サンクト・フローリアン三重奏団

秋恒例の骨髓バンク支援コンサート

前売り¥3000 当日¥3500

8日(月) 福島：会場未定

9日(火) 千葉：アミュゼ柏(柏駅東口徒歩7分)

10日(水) 東京：キリスト品川教会(品川駅より徒歩8分)

11日(木) 埼玉：与野市産業文化センター(与野本町駅より徒歩7分)

・ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲 第7番 変ロ長調 作品97「大公」

・ドヴォルザーク：ピアノ三重奏曲 作品90「ドゥムキー」

お問合せ(全会場共通)：

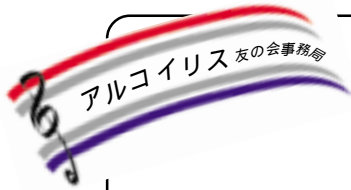
全国骨髓バンク推進連絡協議会 03-3356-8217

11月13日(土) サンクト・フローリアン三重奏団

日映文化ホール(名古屋市天白区)

ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲 第7番 変ロ長調 作品97「大公」

ドヴォルザーク：ピアノ三重奏曲 作品90「ドゥムキー」



小澤洋介、三戸素子、P. ヤング 友の会ニュース No.18



ホットな夏でしたが、ついに9月になりました。大変お待たせしました、友の会ニュース第18号です。

6月のクライネス・コンツェルトハウス《モーツァルト》Vol.5、7月のサンクト・フローリアン演奏会、そして8月のクライネス・コンツェルトハウスVol.7と毎月末行われたコンサートはそれぞれ大きな興奮を残しました。会員から寄せられたレポートやお便りで、お聴きになれなかった皆さまにも、その模様をお伝えします。

サンクト・フローリアン檜舞台の日

友の会会員 本野 義雄

7月31日、土曜日。前日の雨が嘘のように晴れ上がった。サンクト・フローリアンの本番という大抵雨なのに、雨オンナ素子さんの威光(?)も地に落ちたかなどと話しながらかつめに会場へ。舞台では洋介さんとフィリップ君が真剣にベートーヴェンの一節をくりかえしている。応援団長(友の会事務局長というんだっけ)の神谷まさ子さんが、素子さんに頼まれたイヤリングを持って来た。何でも、素子さんが予定していたイヤリングが、朝いくら探してもみつからなかったとか。楽屋でちょっとおしゃべり。3人とも至ってリラックスしている。6時半すぎ受付に行くと、お客の出足は好調。7時には客席の8割は埋まった感じ。緊張が高まる、いよいよベートーヴェンが始まった。猛練習の成果あって、呼吸が合っている。ベートーヴェンらしい密度の高い作品だが、3人とも熱演だ。続いて呼び物の武満作品。フィリップ君がドイツ語で解説、洋介さんが通訳する。クラシックのコンサートで解説は野暮になることが多いが、この曲に関しては、適切だったと思う。お客も好意的に聴いていた。私は、八ヶ岳に続いて2

度目だが、前回より短く、すっきりと連続した印象を受けた。休憩時間、私が所属している合唱団の仲間たちと話す、皆このコンサートに好感を抱いてくれたようだ。評論家の渡辺和彦さんが、「室内楽にこんなにお客が入るのは珍しい、武満をナマで聴けてよかった」と言っていた。第3曲はドヴォルザーク、これはもう楽しくのびのびと、安心して聴けた。アンコールは珍しいモーツァルトの何でも7才の時に作曲したという曲を演奏、大いに楽しませてくれた。入場者約400人、大成功おめでとう！次の洋介さんのリサイタル(10月31日)にも期待しよう。

小澤洋介ベートーヴェン・チェロソナタ 全曲演奏会急遽再演決定！

なかなか開催の難しい東京文化会館に、来る10月31日(日)の夜のキャンセルが出て、マネージャーから打診がありました。それで昨年、聴きごたえ、話題性、また音楽的試みとしても大変反響のあった「ベートーヴェン・チェロソナタ全曲演奏会」が再演されることになりました。洋介氏とティム氏はさっそく準備に入りました。

昨年おいでになれなかった方も、またお聴きになられた方も一年経って熟成させたベートーヴェンを聴きにいらっしゃいませんか？10月の月末も即、カレンダーにコンサートのチェックです。

8月31日クライネス・ コンツェルトハウスに寄せて

友の会会員 津金 秀臣

昨夜はクライネス・コンツェルトハウスに行きました。シューベルトの八重奏曲を初めて聴きました。想像以上の大作に先ず驚きました。全六楽章がときには叙情的、ときには瞑想的、ときには明るい田園的で、それが微妙に変化して繰り返されるのですが、それを八人の演奏者が完全に統一され調和されて、壮大なエネルギーをホール内に造り上げて居ました。

私たち聴衆はこのエネルギーの中に埋没して、一時間はあっという間に過ぎてしまいました。オーバーな言い方をすると「宇宙の涯迄行って来た」様な気が今はします。

それとは別に、演奏者の方々の疲労も大変だろうと思います。

演奏が終わった後、例のとおり拍手がなかなか鳴り止まなかったのです。八人の奏者が二回程ステージに現れて挨拶されましたが、それでも拍手は止みません。その時三戸さんが一人で来られて、「今日の曲は長い曲だったのでアンコールはできません」とさっぱり言われました。日本の演奏会ではアンコールがルーチンワークになっていますが演奏者のことも考えて止めるときは止めるというマナーを皆が身につけたいものですね。

友の会、ただいま会員 244名

2000年まであと半年、友の会の会員も244名にまでなりました。当面の目標300人を目指し、新会員のご勧誘また、会員のご継続、どちらもよろしくお願い致します。

年会費 一口 1,000円

郵便振替口座 00260-1-13926

加入者名：

「友の会 小澤洋介・三戸素子・フィリップ・ヤング」

上記の口座までお振込ください。

また、名前下の数字は会員有効期限年月です。切れている方は同封の振込用紙で、ご継続の手続きをぜひお願い致します。

クライネ・コンツェルトハウス《モーツァルト》Vol.5 「天長節とモーツァルト」 友の会会員 津金 秀臣

平成11年6月30日19:00横浜で行われたクライネ・コンツェルトハウス(モーツァルト)に行く途中で、私は道に迷い山の手の外人墓地の辺りをうろついて、結局会場のイギリス館に着いたのは19:30頃でした。

既に最初の曲の弦楽5重奏曲変ホ長調KV614が演奏されていたので、次の楽章に移る合間に演奏室に入れていただきました。最終楽章しか聴くことができませんでしたが、明るくて透明度の高い旋律に魅了されました。

休憩時間が終わって2曲目のト短調KV516の演奏が始まって暫くしたとき、突然、50数年前に歌った「天長節」の最初の1小節が鳴り響いたときはびっくり仰天しました。何か私の聞き違いだろうと思ったのですが、このメロディーはその後も2回ほど現れました。一瞬私は先刻通った外人墓地に眠っている人の中に、生前この著作権侵害行為を苦々しく思っていたアーティストがいるのではないかと疑ったほどでした。

このことを友人の三井千恵子さんに話したところ、彼女が三戸素子氏に話され三戸氏がこの件を音楽評論家の渡辺和彦氏に伝えられ、同氏が小沢・三戸氏に送付した東京新聞('98.11.27)付のコラム「大波小波」で、『天長節という曲がモーツァルト弦楽五重奏曲ト短調(KV516)から採られているのを見ると仰天せざるを得ない』という記事のコピーが転送されてきました。

これで「天長節」がモーツァルト(KV516)の一部に酷似していることを多数の人が認めているのは明らかなのですが、戦

前このことに気付いた人はいなかったのだろうか、作曲者は誰なのだろうかと疑問は募るばかりでした。そこで日本史小年表(山川出版社)を見ると以下のとおりでした、

明治13年(1880)11月3日 天長節に「君が代」初演奏

明治26年(1893)8月12日 文部省、祝日・大祭日儀式用の歌詞・楽譜を定める。

これで見ると私たちが歌った「天長節」は明治26年に文部省が制定したものと考えられます。

手元にある昭和17年文部省発行の教科書「初等科音楽(一)」をみると天長節は歌詞のみで楽譜は載っていません。神保町で探したところ、昭和5年審秋社発行の世界音楽全集(巻17)「日本唱歌集」(本居長世編)に載っていたので早速購入しました。

次ページがそのコピーです。この作曲者の奥好義という方は如何なる人か手元に資料がないので判然としません。しかし編曲者の本居長世はご存じの方も多いと思われそうですが、念のため小学館の「大日本百科事典」に記載されていることを書き写します。

『本居長世(1885～1945)、作曲家、東京生まれ、1908年(明治41)東京音楽学校卒業、大正から昭和初期にかけて、すぐれた童謡や歌曲を発表、作品を息子が歌うなど、童謡運動に大きな役割を果たした、作品[赤い靴][青い目の人形][七つの子][めえめえ子山羊][十五夜お月さん]などは今も愛唱されている』

私は目から鱗が落ちるおもいでした。本居長世がモーツァルトの(KV516)を聴いたことがないなどあり得まじょうか。よしんば彼が不幸にして聴く機会がなかったとしても、当時の洋楽関係者の誰かが必ず聴いていたはずで。ということは、これは公然の秘密ないしは暗黙の了解であって、何らかの理由でモーツァルトの名前は伏せられたとみるべきでしょう。いずれにしても、この辺の事情は依然として曖昧模糊です。この辺の事柄に通じている方ご教示下さい。



コンサートのご案内

9月16日(木)PM8:00 ミートス弦楽アンサンブル

山梨県清里 萌木の村博物館 ¥3500
ホール・オブ・ホールズ 0551-48-3535

・ベートーヴェン：弦楽四重奏曲 第9番
「ラズモフスキー第3番」八長調作品59の3

・モーツァルト：弦楽五重奏曲 第3番 ト短調 KV 516
出演：三戸素子・山田耕司・小山貴之・二宮隆之・小澤洋介

9月28日(火)PM7:00 三戸素子/クリスティーナ・ヴェナー

横浜イギリス館 ¥3500 ハラヤミュージックエンタープライズ 03-3587-0218
クライネ・コンツェルトハウス《モーツァルト》Vol.6
モーツァルト・ヴァイオリンソナタ集

・第26番 変ホ長調 KV302(293b) ・第25番 ト長調 KV301(293a)
・第28番 ホ短調 KV304(300c) ・第30番 二長調 KV306(300I)

9月30日(木)PM7:00 三戸素子/クリスティーナ・ヴェナー

くろよんロイヤルホテル(長野県大町市) 0261-22-1530

ドヴォルザーク：ソナチネ ト長調
クライスラー：愛の喜び 他
フランク：ソナタイ長調

10月10日(日) サンクト・フローリアントリオ

ロサンゼルス南カリフォルニア大
ドヴォルザーク：ドゥムキー 他、

10月31日(日)PM7:00 小澤洋介/レーヴェンスクロフト

東京文化会館 ¥5000 ハラヤミュージックエンタープライズ 03-3587-0218
ベートーヴェン：チェロソナタ全曲演奏会

11月8日(月)～11月11日(木) サンクト・フローリアントリオ

秋恒例の骨髓バンク支援コンサート 前売り¥3000 当日¥3500

8日(月) 福島：会場未定

9日(火) 千葉：アミュゼ柏(柏駅東口徒歩7分)

10日(水) 東京：キリスト品川教会(品川駅より徒歩8分)

11日(木) 埼玉：与野市産業文化センター(与野本町駅より徒歩7分)

・ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲 第7番 変ロ長調 作品97「大公」
・ドヴォルザーク：ピアノ三重奏曲 作品90「ドゥムキー」

お問合せ(全会場共通)：全国骨髓バンク推進連絡協議会 03-3356-8217

11月13日(土) サンクト・フローリアントリオ

日映文化ホール(名古屋市天白区)

ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲 第7番 変ロ長調 作品97「大公」
ドヴォルザーク：ピアノ三重奏曲 作品90「ドゥムキー」

友の会ニュースでは、皆さまのコンサート
のご感想や自己紹介、また素朴な質問等の原
稿を随時募集しております。



7月31日 サンクト・フローリアントリオ演奏会に際して

小澤洋介、三戸素子、フィリップ・ヤング友の会の皆さま。

みなさまに励まされて発足した「小澤洋介、三戸素子、フィリップ・ヤング友の会」も早3年。この間に250名にも及ぶたくさんの皆さまに入会いただき、そして八ヶ岳支部のご発案で八ヶ岳高原音楽堂のコンサートも実現しました。また会員の皆さまのたくさんの暖かい投稿を頂き、16号に及ぶ「友の会ニュース」も発行されました。その一つ一つに、本当に皆さまのご支援があってこそと、私達は感謝の念でいっぱいです。

この度、来る7月31日東京文化会館小ホールで、96年東京津田ホール以来3年ぶりのサンクト・フローリアン三重奏団のリサイタルを開催させていただきます。東京文化会館小ホールで我々トリオの演奏会を開催することは、私達にとっても新たな、大きな一歩となります。客席数も前回よりずっと多い、収容人員数650席の大きな催しとなります。

是非ここに、また皆さまのご支援をいただきたく心からお願い申し上げます。

1999年6月29日

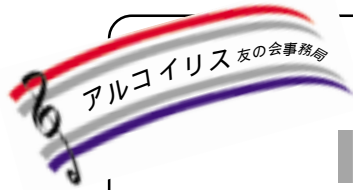
三戸素子 小澤洋介

友の会事務局より皆様へ

今月31日、東京文化会館小ホールで開かれるサンクト・フローリアン三重奏団のコンサートを前に、三戸、小澤両氏より上記の文書が事務局に届きました。彼らの情熱、意気がひしひしと伝わってきます。

東京では久しぶりの、クラシック音楽ではトップクラスのコンサートホールでの演奏会です。「友の会」も、ここは一番気合いを入れて、全力をあげて支援を送る時ではないでしょうか。現在の「友の会」会員(250名)全員が来場しても、東京文化会館小ホールの約4割の席を埋めることしかできません。残念ながら遠方にお住まいで(会員は、全国北は福島、南は福岡、カナダ・トロントまで広くいらっしゃいます)今回どうしてもご来場できない会員の方々もいらっしゃるでしょう。二人でも三人でも、彼らの演奏を好きそうなご友人、知人をお誘いいただければ、6割、7割と席を埋めることができるとおもいます。演奏家にとって、多くの観客を前に自分たちの音楽を表現できることは、百万の味方を得たようなものです。私達会員が彼らの演奏を楽しむのと同時に、この楽しみを一人でも多くの方たちに体験して頂きましょう。この演奏会の成功に向けて、ぜひ、会員皆様のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、今年4月より友の会有志の寄付による「アルコ・イリス基金」が発足しました。現在主として、彼らの演奏会の宣伝広告に充てています。今回のサンクト・フローリアン三重奏団の演奏会では、朝日新聞夕刊マリオン音楽情報欄(7月8日付)、音楽情報誌「ぶらあぼ」(7月号)に広告を出しました。この基金へのご寄付を募っています。詳細は事務局にお問合わせください。



小澤洋介、三戸素子、P. ヤング友の会ニュース 第16号



クライネス・コンツェルトハウスって何??

洋介さんと素子さんは「クライネス・コンツェルトハウス」というコンサートシリーズを主催しています。先日、ある会員より「この『クライネス・コンツェルトハウス』というのと『サンクト・フローリアン』ってどんな関係なの?」という質問がありました。そこで今回、彼らにその辺のところを質問してみたいと思います。

神谷 まず、洋介さん素子さんのやっている室内楽のコンサートの中で、上記の名前とそしてその他に「ミートス弦楽四重奏団」というのもありますね。それらについてもう一度説明して下さい。

小澤 それでは、歴史をたどってご説明します。いまから約12年前、まだ小澤とヤングがザルツブルクのモーツァルテウム音大の学生で三戸はすでに卒業して、やはりザルツブルクを中心としてコンサート活動をしているとき、三人がピアノ三重奏をやろうと集まりました。そして、ザルツブルクの旧市場広場の聖サンクト・フローリアンの銅像から勝手?に名前を頂戴しました。

三戸 それから、日本に本拠地を置く「ミートス弦楽四重奏団」というグループをその6年後に作りました。実は私たちにとって弦楽四重奏というのはとても得意で、学生時代アマデウス弦楽四重奏団に師事してドイツやオランダを中心に演奏活動もすでにしていました。また、私は92年まで「ザルツブルク弦楽四重奏団」のメンバーでもあったんです。

神谷 ミートスってギリシャ語で「神話」や「伝説」という意味のですね。もしかして「Mito's」つまり三戸素子弦楽四重奏団ってという意味もあるんじゃないですか。

三戸 そんなの絶対ないです。(否定)

小澤 いや「これは結構ひっかけてて面白いな」なんて思っていましたよ。(笑)

神谷 それでは、クライネス・コンツェルトハウスはどのようにできたのですか?

三戸 音楽家である以上、現存する名曲すべてを演奏してみたい。その世界に触れてみたい。この一点から前後の見境もなく、はじめたのがこのクライネス・コンツェルトハウスです。この名前の意味は、クライネス(独:小さな)コンツェルトハウス(独:音楽堂)という意味を持つ、コンサートシリーズということで、ここでいう「小さな」というのは、室内楽のこと。そして、音楽堂すなわちコンサートホールは、音楽を作りだしていく場所で、その実際は建物ではなく、演奏者達と聴衆ということなんです。

神谷 つまり、「サンクト・フローリアン」と「ミートス」はグループ名で「クライネス・コンツェルトハウス」はシリーズのタイトルということですね。それでは、クライネス・コンツェルトハウスは今後どのように発展していくのでしょうか?

小澤 現在活動している八重奏を基盤としての弦と管とのアンサンブル。横浜でのモーツァルトのシリーズでの研究を基盤として、モーツァルトのセレナーデやシンフォニーまで可能な、室内オーケストラまで発展させるヴィジョンを持っています。また、さらに大きく活動していくこともさることながら、どうしたら一回一回のコンサートをより高度に質を上げていくことができるかを念頭において続けていきたいと思っています。

鎌倉円覚寺チャリティーコンサートを聴いて 友の会 会員 外谷 千春

4月6日、毎年春の恒例になっているサンクト・フローリアンの骨髓バンクチャリティー円覚寺の夕べ。ご自身も埼玉県で骨髓バンクのボランティアをなさっている会員、外谷千春さんからのレポートです。

4月3日、電車の窓から桜を眺めながら遠足気分で行った第8回骨髓バンクチャリティーコンサート。北鎌倉に着くと、冷んやりした清浄な空気の中「神奈川骨髓移植を考える会」の方々が揃いの黄色いジャンパーで早くからPRされていました。石段を登るとかすかなりハーサルの音色が、ペールに包まれたように円覚寺と一体となり、不思議な安堵感を覚えました。

「畳に座布団」のコンサートは私の好奇心を刺激するものでした。お釈迦様の見守る中、この日の為に運ばれたピアノやボランティアの方が生けたという見事な花、すべてが

マッチしているのです。坪郷アナウンサーのユーモアあふれる司会、斉藤和尚さんの有難いお話に始まり、サンクト・フローリアン・トリオの皆さんの登場・・・素子さんのチェリーピンクの衣装が金屏風に映えて季節にピッタリでした。

シューマンの珍しいエチュードにベートーヴェンの若き日の作品、後半の小澤さんの骨髓バンクのPRに続くモーツァルトの美しさと言ったら真珠のよう!!アンコールのクライスラーの「小さなウィーン風の行進曲」がまた春風の如く心踊るものでした。子供を連れていったので後方に座っていたのですが、トリオの皆さんの音に乗せた真心は隅々にまで伝わっていました。

神谷まさ子のロサンゼルス・フィリップ邸 突撃訪問記

3月末に素子さん、洋介さんがロスのフィリップ氏の所で練習するというので、私もおじゃま虫で出かけ、自宅へのご招待まで受けてしまいました。フィリップが住んでいるのは、パサディナという、とてもおびやかで、落ち着いた街で、ロスの西北にあります。彼はここの大学の先生をしているのですが、この街がとても気に入っているんだそうです。

サンフランシスコから到着した晩は、皆で夕食をと繁華街？（歩道は広く、建物も2階建止まりで何となく懐かしい感じの町並み）へ繰り出しました。人通りは多くなく、日曜のせいなのか、人口がそんなに多くないのかなと思っていたら、なんとこの日はアカデミー賞の発表当日、フィリップ曰く「皆、家でテレビにかじり付いているんだ」とのこと。そういえば、ホテルのラウンジでもテレビの回りに人が大勢座っていました。さすがハリウッドの隣街。映画関係の仕事をしている人も多く住んでいて、ケヴィン・コスナー夫人経営のレストランに予約を入れたところ、今日はアカデミー賞関係で貸切との事。前を通ったら、歩道に赤い絨毯まで敷いていて、中ではワイワイガヤガヤしていました。素子さんも、登場する女優陣の衣装ウォッチングでテレビから目が離せず、練習にならなかったそうです。

数日後、今度は自宅を手料理をご馳走してくれるということで、遠慮もなく、ウキウキと出かけました。フィリップの住居は、良く手入れされた庭付の家が並ぶ、感じの良い住宅街のアパートです。大きなリビング・ダイニングに2ベッドル

ムという広さで、住宅事情は、日本と比べ羨ましい限りでした。

さて、フィリップが腕によりをかけて作ってくれたメニューは・・・まず、冬瓜と干し海老のスープ（絶品）干し椎茸入りおこ

わ（お土産に持っていったのを使っていて感激）慈姑と白木耳、鳥肉の旨煮（取り合せの妙、豆苗のスープ炒め（繊細な味）等々、七品にも及び、最後は中国風おしるこで締め括るという力作でした。一緒に来ていた妹さん（ナンシー）に言



フィリップ氏の心尽くしの中華のご馳走風景
フィリップの隣は妹のナンシーさん（そっくり！）左端が私です。撮影は同行した会員 本野義雄氏

わせると、「母の料理に比べると、繊細すぎる。」との事でしたが、聞きしにまさる腕前で、大満足でした。ごちそうさま！！

翌日、昼間にフィリップの家の前でぼんやりしていたら、隣のアパートの部屋を見ないかと、不動産屋の婦人に誘われてしまいました。心がグラッと動いたほど、暮らしやすそうな街です。帰りの飛行機の中で、新聞の不動産欄をじっくり読んでしまいました・・・。



6月、7月、8月の末日はコンサートの日

来る6月30日(水)、7月31日(土)、8月31日(火)と3ヶ月連続で末日にコンサートがあります。開演はいずれも7:00pm。

6月30日横浜イギリス館の《モーツァルト》シリーズの弦楽五重奏曲集その3。そして7月31日には、あのサンクト・フローリアン三重奏団の上野の東京文化会館で久しぶりの大きなリサイタルがあります。昨年八ヶ岳高原音楽堂においてになれなかった方も、今回は東京・上野で、しかも土曜日！ぜひ応援にいきましょう。

8月31日は、奏楽堂でお馴染みだったクライネス・コンツェルトハウス Vol.7 の東京文化会館の初デビューです。

皆さま、友の会割引もあります。いまから月末のカレンダーにチェックをどうぞ！！

コンサートのご案内

クライネス・コンツェルトハウス《モーツァルト》 Vol.5

三戸素子、山田耕司(Vn) 小山貴之、二宮隆行(Vla) 小澤洋介(Vc)

6月30日(水) 横浜 イギリス館 PM 7:00 **友の会割引有**

全自由席 モーツァルト：弦楽五重奏曲 第6番 変ホ長調 KV614
¥3,500 モーツァルト：弦楽五重奏曲 第4番 ト短調 KV516

サンクト・フローリアン三重奏団 in 東京文化会館

ヴァイオリン：三戸素子 チェロ：小澤洋介 ピアノ：フィリップ・ヤング

7月31日(土) 東京文化会館 7:00pm **友の会割引有**

全自由席 ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲「幽霊」
¥4,000 武満 徹：ピトゥイーン・タイズ
ドヴォルザーク：ピアノ三重奏曲「ドゥムキー」

クライネス・コンツェルトハウス Vol.7

三戸素子(Vn) 山田耕司(Vn) 小山貴之(Vla) 小澤洋介(Vc)
西澤誠治(Kb) 藤田乙比古(Hr) 山根公男(Cl) 武井隆樹(Fg)

8月31日(火) 東京文化会館 7:00pm **友の会割引有**

全自由席 フランセ：八重奏曲～親愛なるシューベルトに捧げる～
¥4,000 シューベルト：八重奏曲

友の会、ただいま会員 248名

2000年まであと半年、友の会の会員も248名にまでなりました。当面の目標300人を目指し、新会員のご勧誘また、会員のご継続、どちらもよろしくお願い致します。

年会費 一口 1,000円

郵便振替口座 00260-1-13926

加入者名：

「友の会 小澤洋介・三戸素子・フィリップ・ヤング」

上記の口座までお振込ください。

また、年会費の切れました会員の方には友の会ニュースと一緒に、次年度用の振込用紙を同封させていただきます。お手数ですが皆さまのご継続をお待ちしております。



友の会 ついに会員200名突破！！

1996年に発足した「小澤洋介、三戸素子、P.ヤング友の会」が、2年半目で会員200名を超えました。皆様からお寄せいただいた年会費の余剰金は、彼等の作品である自主コンサートの支援として活用させて頂いています。彼等の演奏のファンである私達は、もっともっと自由に演奏活動をしてもらいたい、そしてそれを沢山聴きたいと願っています。昨年11月の友の会主催の八ヶ岳高原音楽堂のサンクト・フローリアンの演奏会も心に残るもので、ぜひまたリピートしていきたいと考えています。

会員の皆様、ぜひ変わらぬご支援をお願いいたします。皆様のご意見、お便り、アイディアもお待ちしております。会員1000人!!を目指す会(怪)員もおられます。益々の友の会の発展に向けて、これからもよろしくお願い申し上げます。(事務局・神谷まさ子)

気まぐれ連載

志賀紳のコンサート日記

2月5日演奏堂 クライネス・コンツェルトハウス Vol.6の巻

友の会会員 志賀 紳

上野音楽堂は綺麗な重要文化財の木造建築で好きなのですが、休憩時間にもタバコが吸えないので閉口します。でも、この日の音楽はそれを補ってあまりあるものでした。

ドヴォルザーク・弦楽五重奏曲

いままでモーツァルト中心のクライネス・コンツェルトハウスを聴いていたせいでしょうか、まるで違った近代音楽だと思えました。はじめのうちは、こちらに雑念が残っていたためか、あるいはこの時代の音楽の聴衆層が広がっていたのか、サービスピ精神満点の楽しい、中途半端な音楽だなあと思つて楽しんでいました。しかし、三楽章をすぎると、チェコの民族音楽の調べがきこえてくると、一挙に、なつかしさが引き出されました。東ヨーロッパの森の静けさ、その近くの火の乏しい酒場の人々の音楽、まざまざと見えるようです。とくに最終楽章でドヴォルザークが民族音楽を本当に大切にし、こういう澄んだ近代音楽に高めてくれたこと、三戸さん、小澤さんが、それをみごとに知的に、意志的に弾いて聴かせてくれたこと、アンサンブルも良かったこと、みな感謝のほかありません。

モーツァルト・ディヴェルティメント

ほんとうに感動しました。はじめは特に変わった曲でもありません。モーツァルトはルーチンも楽しい、人なつっこい人だつたらしい、などと思つていっているうちに、ときどき、放心の中から出てきたような意外な音が響きます。その微妙な変化が積み重なってくると、ほんとうに美しい曲になっているのでした。感動もはげしく来たのであります。ゆっくりと、気がついてみると私は感動していたのでした。モーツァルトの偉大な理由の一つもわかった気がします。彼はそれまでのヨーロッパ音楽の遺産の上に立ち、どの曲、どの小節にも一滴ずつを加え、そのつみ重なりが質的にも

彼の音楽を変え、私たちの「モーツァルト」になつたのだと思ひました。それに、始めから終りまで、ヴァイオリンの響きのすばらしかったこと！私は「モーツァルトにはよほど好きなヴァイオリンニストがいたにちがいない。きつとその人のために書かれたのだ」と思ひました。しかし、後でみると、このころ彼はヴァイオリンをよく弾き、ある手紙で「私はヨーロッパのヴァイオリニストになつたような気がします」と言っているそうです。モーツァルトは自分のために、もっとも表現したい事を、遠慮なくヴァイオリンに託したにちがひありません。その気持ちも乗移つたように、三戸さんのヴァイオリンは素晴らしいものでした。第4楽章の独奏部分では涙も流れました。皆さんご存じのように、彼女は全身で弾きます。私は後の席だったので表情は見

えませんが、三戸さんの体の動き一つ一つが曲の流れと一体になり、その解釈になっています。ズボンをはいているので、靴の先の動きまでがそうで、美しいものでした。メヌエットの楽章の弦とホルンのかけあいもみごとでしたが、第4楽章で出番がないのに、ホルンの人たちが一点を見つめて弦を聴き、沈黙したまま、曲に集中しているのを見たのも感動的でした。最終楽章で、私は音楽が変わつたと感じました。これはもう美しい音楽であることを通りこして、堂々たる自信を持った音楽になつていきます。モーツァルトは、もう聴衆に遠慮することなく、自分の音楽を創っている、この曲は彼の音楽の(少なくとも一つの)転機になつているのではないかとさえ思ひました。

次ページに続く

三戸素子のヴァイオリン雑話 その7

窓際に並んだ作業台に5人、こちらに背を向けて座って一心不乱に楽器を作ったり修理したりしている。木を削ったりする作業の音のほかは、頭上にたくさんぶら下げられたヴァイオリンの列もしんとして、心地よい緊張感が漂っている。そんな空間が、前回ご紹介したヴァイオリン作りの名人、植木氏の工房です。

植木さんは物凄い毒舌なので、彼のところへはこちらもテンションを上げて行かないと、太刀打ちできません。彼は、ストラディヴァリでもグウルネリでも、古い楽器は皆どこか壊れていて、新作の楽器を弾かないのは、愚かだということです。よい演奏は、健康な楽器が100%鳴っていて可能だということです。彼の作る楽器はまさに健康そのもの、明るい音が低い弦から最高音まで、全くむらなく鳴り響きます。私がアマティやグワダニーニを調整に持っていくと、嫌いなオールドヴァイオリンだとぶつぶつ言いながらも、私がいままで経験したヨーロッパの名人達の誰よりも、素晴らしい状態に仕上げてくれます。すると躊躇無く魂柱を立てたり、ぎゅっと太い指で挟んだ駒の脚を楽器にあてて絶妙のタイミングで立てたり、一つ一つのパーツがその楽器にとって、そこしかありえない場所というものが彼にはわかっているようです。

「この駒を削った奴は、見えつ張りて雑な奴だね。」というコメントに、私はベルリンの有名な楽器製作者の顔を思い浮かべます。高価な楽器を調整する誇りに満ちた顔と、雑事に追われて息の浅い感じ…。まるで、吉川英治の宮本武蔵のように、植木さんには木を削った跡から手掛けた人間の人物まで感じ取れるのでしょうか。私は現代に生きていて、そして日本人として、そんな彼の作るヴァイオリンを弾きたいし、また尋常でないプライドの彼が、自分の大事な楽器を私に弾かしてくれていることを誇りにも思っています。

「志賀神のコンサート日記」
前ページより続

このあと、この「デイヴエル
テイメント」をヨーロッパの有名
名チームのCDで聴きました。
弦を増やしたこともあるのでし
ようが、きれいなアンサンブル
で、美しい優雅な曲として弾い
ています。ヴァイオリンもとく
に目立たずにとけこみ、あのホ
ルンも弦とのかけあいではなく
流れの中にごく自然にのつた効
果音として扱われていました。
これが同じ曲かと思えました。
また、人と話していたら「演奏
順序が普通と逆だ」と言います。
先にモーツァルトできれいな音
楽を聴かせ、ドヴォルザークで
楽しませる、というのが普通だ
らうと言つのです。驚きました。
私たちのクライネス・コンツェ
ルトハウスは、モーツァルトを
「完成されたきれいな音楽」とし
ただけでなく、時には野性をも
感じさせる、彼の魂の深みに迫
り、ダイナミックに演奏してい
る人たちののだ、と改めて思い
ました。「モーツァルトは現代音
楽だ」というのも、そういうこ
となのでしょうか。曲順にも、そ
の本願が現われています。改め
て私は幸せだと思います。
こんなところに連載されると
は夢にも思っていないせんでした。
少し前、坪井さんの文章に感心
しましたが、皆さん、遠慮なく
感想をお寄せになつたらいか
ですか。そういう「友の会」に
していきたいと思います。

今年の「CDジャーナル12月号」に小澤洋介氏の名前発見！



～第12回～

10月はたくさん
チェリストに出会った
渡辺和彦

10月後半の東京の演奏会は、少し大きめに
言えば、チエロづくしだった。20、22日は3
日連続でヨヨー・マのリサイタル（20、21日）
とコンチエルト（22日）があり、同時に22、27
日には6日間連続で、カサルスホール恒例の
チエロ連続リサイタルが行なわれていた。
カサルスホールでは22日にイギリスの人気奏者イッ
サリスが、26日にはハンガリーの強列な名人
M.ペレーニが登場。またこれとは別に、その
少し前、14日には津田ホールで小澤洋介（カ
ナダ、トロント大を経てサルツブルクで修行し
ていた名手。V.オルロフ門下）が、ベートー
ヴェンのチエロ・ソナタ5曲を1日で全部弾く
というリサイタルを敢行。これは大変な稽古も
ので感心させられた。また22、23日には境川に
よる悲愴的な曲目のリサイタルもサントリー・
小ホールで行なわれた。
ヨヨー・マの初日のメインはコダーイの
「無伴奏ソナタ」、2日目は現代アメリカのさま
ざまな作曲家による「ハッハ」ゴルトベルク変奏
曲」をもとにした自由な創作だった。中でもコ
ダーイは、一大難所のはずの部分がかきれいな音
でスラスラ眼前を通り過ぎていき、「エッ!?」と
いうオドロキの連続。ただし低音部曲的な対応
の浮き上がらせ方、重音や和声的部分の処理
などとは驚かすことを言いたすと、彼としても
たぶんまた研究段階の部分を残していると思わ
れた。そういうヨヨー・マを聴くのは貴重な機
会。彼が、彼が、いつも完璧な曲というわけ
にはいかないだろう。



ペレーニのチエロは、どこかニヒルで冷んや
りした音の感触をもっていた。これは楽器の
せいというより演奏者の特質だろう。そのか
わり彼はもう、技術的にはヨヨー・マとま
た違った意味で、すでに最高レベルに達し
ている。その点で言えばイッサリスも同じな
のだが、こちらのほうは何でもかんでもバラバ
ラ上手に弾いてしまつて少し味気ない。ニヒ
ルと「味気ない」とはちがう。ペレーニのバ
ッハ（無伴奏）第5番八短調、ソツとするほ
ど暗いトーン。変則調弦で演奏。には作曲家
も演奏者の顔も実在したのに、イッサリス
のほうは何でこうなるの？といううちに全
曲が終わつてしまふ。フリテンの「無伴奏ソ
ナタ」第3番も、お上手お上手、という感じ。
技術が基本の分野では、下手よりも巧いほ
うがいいに決まっている。しかしその「巧さ
の、あり方」は人によって異なる。この一文に
名前の出てきたチェリストの知名度、人気度
のランクづけはわりあい容易だが、それでは誰
がほんとうに巧く、どの人が「真の一流」なの
かは判断を許さない。

コンサートのご案内



4月3日(土)17:30
骨髄バンクチャリティ、第8回円覚寺ピアノ三重奏の夕べ

前売¥3,000、当日¥3,500
お問い合わせ・神奈川骨髄移植を考える会 TEL.0463-21-0010
曲目：シューマン：カノン風エチュード
ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲第3番八短調作品1-1
モーツァルト：ピアノ三重奏曲第五番ホ長調

桜の鎌倉。1年半にわたる改修工事もすみ、新しくなり
滅多に入ることの出来ない円覚寺方丈でのコンサートです。
司会はNHKでおなじみの坪郷佳英子アナウンサーです。

4月5日(月)PM8:00
清里、萌木の村ホール・オブ・ホールズ・ミュージアムコンサート

サンクト・フローリアン演奏会
¥3,500(要予約)
素晴らしい木造のオルゴール博物館。トリオ3人のお気に入り
の比類のない音響のホール、宿泊も可能です。お問い合わせ
ください。
ホール・オブ・ホールズ TEL0552-48-3535
FAX0552-48-2434
曲目：4/3と同じプログラム

4月6日(火)PM7:00
クライネス・コンツェルトハウス《モーツァルト》Vol.4
ピアノ三重奏曲集その1

出演：サンクト・フローリアン
¥3,500

(今回、諸事情により友の会割引がありません。ゴメンナサイ)
横浜 イギリス館
行った人はみなファンになる、珠玉のイギリス館の
モーツァルト、ついにサンクト・フローリアン登場！

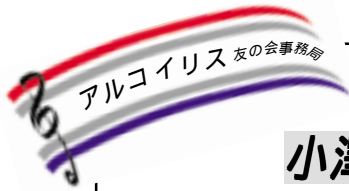
友の会、ただいま会員210名

友の会もスタートして2年半。会員は現在、約210名です。新会員の
ご勧誘また、会員のご継続どちらもよろしく願いいたします。

年会費 一口 1,000円

郵便振替口座 00260-1-13926

加入者名：「友の会 小澤洋介、三戸素子、フィリップ・ヤング」
また、年会費の切れました会員の方には「友の会ニュース」
と一緒に振込用紙を同封させていただいております。



小澤洋介、三戸素子、P. ヤング 友の会ニュース 第14号

新年あけましておめでとうございます。

今年もおもしろそうな演奏会がめじろ押し、期待の1999年！



今年の上半期、主なスケジュール

- | | | |
|-------|----------------------------------|---|
| 1月10日 | サンクト・フローリアン三重奏団 | スイス・ヴィンタートゥール音楽協会 |
| 2月5日 | クライネス・コンツェルトハウス Vol.6 | 奏楽堂
ドヴォルザーク：弦楽五重奏曲 / モーツァルト：ディヴェルティメント |
| 2月末 | 三戸素子 / クリスティーナ・ヴェナー | in オーストリア フランク：ヴァイオリンソナタ他 |
| 2月28日 | 小澤洋介チェロ演奏会 in 上福岡 | シューベルト：アルペジオーネソナタ他 |
| 3月 | サンクト・フローリアン春季合宿 | in ロサンゼルス |
| 4月3日 | サンクト・フローリアン春の円覚寺 | |
| 4月5日 | サンクト・フローリアン春の清里・ホール・オブ・ホールズ | |
| 4月6日 | クライネス・コンツェルトハウス《モーツァルト》Vol.4 | サンクト・フローリアン
ピアノ三重奏曲集 その1 |
| 6月30日 | クライネス・コンツェルトハウス《モーツァルト》Vol.5 | 弦楽五重奏曲集 全3夜その3！ |
| 7月31日 | サンクト・フローリアン演奏会 in 東京文化会館 | |
| 8月31日 | クライネス・コンツェルトハウス Vol. 7 in 東京文化会館 | シューベルト：八重奏曲他 |



神谷まさ子の今年の聴きどころインタビュー

Q(神谷) 今年もおもしろそうな演奏会がたくさん並びましたが、この7月と8月に東京文化会館がありますね。

A((三戸) 7月のサンクト・フローリアンの演奏会は前回1996年ニューヨークのカーネギーホールでの演奏会の年、津田ホールでも同じプログラムを演奏しましたが、それ以来の東京での大掛かりなコンサートですね。

A(小澤) 8月のは、3年前から続けてきた室内楽シリーズ「クライネス・コンツェルトハウス」を奏楽堂から東京文化会館に移してやってみようかと企画しました。

Q(神谷) 奏楽堂は重要文化財の建物だけあって、雰囲気もレトロな感じでよかったのですが・・・

A(小澤) そうなんです。ですがこのホールは以外と一般的評価が低いんです。

Q(神谷) えーと、どんなふうですか？

A(小澤) 音響が悪いとか、冷暖房の効きが悪いとか、来る途中の上野公園の浮浪者さん達が怖いとか・・・でも、私達にとって奏楽堂はかけがえのない場所なんです。今から100年以上前に日本初の音楽ホールとして造られ、この舞台に、滝廉太郎、山田耕筰等がこの舞台に立ち、ベートーヴェンの「運命」や「第九」が初演され、現在でもその舞台に立るといことは、オーストリアにいた頃ウィーンの楽友協会の舞台に立つ機会があったとき、「ああ、ここにブラームスやマーラー、その他大勢の偉大な音楽家達が立ったんだな」という伝統に対する感動と畏敬を感じたのと同じ感覚をもっています。3年前、ぜひ日本でヨーロッパで行なわれている以上の室内楽コンサートシリーズをつくりたいと「クライネス・コンツェルトハウス」を始めました。この時「文化というものは先代から次世代に受け渡していくもの」というコンセプトのもと、100年以上前の心から音楽を愛し、日本に紹介し、文化を作り上げてきた先人達に学ぶ意味でも、ここが相応しいとあえて選んだのです。

Q(神谷) それでは、今回を限りに奏楽堂から文化会館になぜ移すのですか？

A(小澤) クライネス・コンツェルトハウスのメンバーも、それぞれ異なるバックグラウンドをもって集まってきました。その音楽の方向性を合わせていくのに、やはり何年もの時間がかかります。今回その3年目の節目としてあえて場所を変え、益々の演奏のクオリティーのアップを目指し、今までの2倍以上の大きさの東京文化会館での演奏会を企画しました。

Q(神谷) またその他のコンサートは、こういったところが聴きどころですか？

A((三戸) どのプログラムも粒ぞろいになりました。横浜イギリス館で続いているモーツァルトのシリーズによいよピアノ三重奏が登場、今年と来年で全曲演奏します。名曲ぞろいの弦楽五重奏はいよいよ6月で全曲が完結。また2月5日最後の？奏楽堂ではドヴォルザークとモーツァルトと華やかな大曲ふたつで、これは絶対いい曲です。ぜひ聴きにいらして下さい。

Q(神谷) 楽しみにしています。

友の会、ただいま会員 178名

友の会もスタートして2年あまり。会員は現在、約178名です。当面の目標200人を目指し、新会員のご勧誘また、会員のご継続、どちらもよろしくお願い致します。

年会費 一口 1,000円

郵便振替口座 00260-1-13926

加入者名：

「友の会 小澤洋介・三戸素子・フィリップ・ヤング」

上記の口座までお振込ください。

また、年会費の切れました会員の方には友の会ニュースと一緒に振込用紙を同封させていただいております。

三戸素子のヴァイオリン雑話 お久しぶりの連載その6

アマティのお話をしてきましたが、私はこの楽器を奏くだけでなく、他にもさまざまな恩恵にあずかってきました。例えばこのヴァイオリン一丁を見せるだけで信用を得られ、世界各国の楽器屋さんに入出入りする、ひとつのパスポートになったことが挙げられます。

ロンドンやパリ、ニューヨーク、アムステルダム・・・、どの文化的大都市にも必ずひとつやふたつ、知る人ぞ知る老舗の楽器商があります。店はその何代にも続いた楽器商一族の名前がかかげられ、格式の高い一流どころの楽器商はヨーロッパの文化や世襲制そのものといった感じで、現実離れた古い伝統世界に足を踏み入れるようです。

だいたいどのお店も古い建物に入ってすぐ、ショッポのような部屋があり、その奥に楽器を見せてもらったり弾いたりするいくつかの部屋があり、そしてその奥か地下には名器だけが入った大金庫の部屋があります。ショッポには先代、先々代の主人が、ヨアヒムとかハイフェッツとかの往年のヴァイオリニスト達と談笑している写真や、新旧のヴァイオリニスト達のサ

イン入りのポートレートが、所狭しと掛けられて壁をセピアに染めていました。

最初は若い店員が出てきて対応しますが、「こんな弓を探している」とか説明すると、ほとんどの場合、当主が出てきて相手をしてくれました。大きな楽器商になるとドイツ語、英語で通じ、奥の部屋に通されて、弓や楽器を持ってきてくれました。アマティを見せると大喜びして、そのまた奥の金庫室で店の自慢のストラディバリウスやグアルネリ等を見せてくれたりしました。どの楽器屋さんでも、興味深くあつという間の数時間を過ごしました。

楽器を買いいたい友人達に頼まれて一緒にいってあげたり、演奏旅行等で大都市を訪れると、有名な楽器屋さんのところには用があってもなくてもほとんど表敬訪問のように行って、実に多くのお店を訪ねました。ここ5年ほど楽器にも弓にも満足し、楽器の調整などをしてくれる素晴らしい名人を日本で見つけたので、ずっと海外の楽器屋さんにはご無沙汰です。

気まぐれ新連載

志賀紳のコンサート日記

友の会会員 志賀 紳

昨年入会の志賀紳氏は、クラシックにすっかりはまってしまい、いつもユニークな感想文を事務局にお寄せ下さいます。それで今号から不規則連載にすることにしました。彼の文にハマりそうとの読者の声も寄せられています。今回は12月8日のイギリス館《モーツァルト》Vol. 3「弦楽五重奏曲集 その2」の巻です。

ファンというのは難しいものです。精神的にも肉体的にも（あれは重労働ですから！）あんなに大変なことをやってくれているのだから、いいことだけを言ってあげたいと思います。しかし今、私はめったにない機会に恵まれているのだから（私の芸術世界の中に音楽が意識的に入ってきたのは初めてなので）やはり自分の心の声だけに従ってみようと思います。訓練不足から来るトンチンカンや誤解、間違いも恐れずに、書いておこうと思います。

「弦楽四重奏第23番」この曲は、第三楽章の始めあたりで初めて面白いと楽しみはじめたのでした。時として、モーツァルト的な抒情が開放されても、すぐ抑制の利いたものになってしまう、そんなもどかしさがありました。そして、弦楽四重奏曲のアンサンブルがどうも解らないと何度も思いました。

ところが、二曲めの「弦楽五重奏第1番」になると一変しました。とても楽しかったのです。「森林浴」ではないけれどいけば「音楽浴」の中にいるようなのでした。心が開放されたの

か、席を最前列から二番めに変えたからか、あの元暴走族みたいな茶髪のお兄ちゃんがヴィオラに加わったせいか、曲のためか、自分でも解らないけれどそうなのでした。曲そのものは（第四楽章を除けば）めずらしくもない、どこかで聞いたような、極論すれば展開部だけみたいな音楽なのに、不思議な楽しさなのでした。第四楽章も、チェロが一人で二、三小節を弾くのをきっかけに緊迫してくるのですが、それさえ「ちょっと早くなるだけなのに、何でこんなに面白いのだろう」とさえ思えてくるのです。「こんな曲を創るようじゃ、モーツァルトも大したことはないな」と思ったり、「こんな曲でもこんなに楽しめるのだから、やっぱり彼は天才なんだ」と思ったりでした。曲そっこのけで「弦楽五重奏の楽しみ」を味わったと思うのです。ひょっとすると、私はあの元不良みたいな茶髪のお兄ちゃんが好きなのかもしれません。アンサンブルの上ではどうかはよく分かりませんが、この人はときどき小澤さん、三戸さんに負けない豊かで、すてきな響きのいい音を出してくれるのです。大股を広げて、田舎風、野人風ですが、とても繊細なところがあり、見て聞いているかぎり、芸術家のオーラのある人で私は好きです。曲があまり不審なので、休憩時間にプログラムを見てみました。すると、この曲はモーツァルトの十七歳の時の曲なのですね。「梅檀は双葉より香ばし」こんな時から彼は音を楽しむことを、弦楽器の音を楽しませてくれることをよく知っていたのですね。

やはり一番感動したのは三曲目、弦楽五重奏五番です。対照させて聴くのは素晴らしい事です。この曲ではモーツァルトが第一番とはまったく違って、すでに成長し、自信を持った本当に優れた音楽家になったことを実感させます。第二楽章の悲劇的とも言える音に感動しながら、私はまだ、こういう音楽に対しても適切な表現を持っていないことを痛感します。音楽は、やはり音楽を深く知ることによってしか、確かな感想も表現はできないのでしょう。各パートが、とくに小澤さんと三戸さんが、次々現われる楽想を自信を持って表現し、音楽全体が波の様にうねって来るのは、素晴らしいことでした。そして最終楽章の七連音符の面白かったこと。演奏前に話を聞いていたからよけいだったのでしょうが、あの楽章全体がああ音の余韻の印象で、そうでないところまで同じような面白さで聴けてきました。（抜粋）

極秘入手！ フィリップが練習のため来日！

1月10日の大事なスイスの演奏会のためにフィリップが来日、4日間のリハーサルをして帰りました。その4日間の日常のタイムスケジュールを初公開！！

AM8:30 朝食(紅茶とパンと卵料理)
9:15 練習開始
PM1:00 昼食(素子さんが作るか外に食べに行く)
ちょっと休憩
4:00 練習再開
8:00 夕食(素子さんの手料理、今回は鳥の水炊き、刺し身、サーモンステーキ、豚生姜焼等)
10:00 もうひと練習
11:00 練習終了

だいたい1日9時間位練習していたようです。



小澤洋介、三戸素子、P. ヤング友の会ニュース 第13号



11月15日、友の会主催サント・フローリアン八ヶ岳高原音楽堂コンサート大成功！！

皆様、今年もご支援有り難うございました。

今年もたくさんすてきなコンサートがありました。そして初めて友の会主催で行なったサント・フローリアン八ヶ岳高原音楽堂コンサートは、期待どおりの演奏、そして晴天にも恵まれ大成功でした。その後事務局には、多くの称賛の声が寄せられています。会員の皆様をはじめ、八ヶ岳高原音楽堂、ロッジほか、実に多くの方々に応援して頂き、本当に感謝しております。特に協賛をいただいたアサヒビールの専務、植松増美氏には、レセプションの乾杯の音頭からこの友の会ニュースの原稿に至るまで、惜しみないご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。

特別寄稿

サントの皆さんありがとう！

アサヒビール 植松 増美

晩秋の午後のひと時、八ヶ岳東麓の一角に、折からの紅葉に加えて、美しい三重奏曲がただよった。そこには、新鮮な音色に魅せられた百数十人の満足があった。ちょっと早い紅葉と人々の安らぎとが調和していた。

今まであまり馴染みのなかった武満 徹も、この日の「ビトウイーン・タイズ」によって、「これから少し、かじって見ようかな。」という気持ちになった。ベートーヴェンとシューベルトのピアノ三重奏曲は、夫々今まで聴いたことのある楽しい曲であったが、今日の演奏で、「何か、自分だけが知っている特別の秘められた宝物」を得たような気持ちになった。

私の勤務するアサヒビールでは、企業の行う文化支援活動（メセナ）の一つとして、音楽・美術部門に限って、新進気鋭の芸術家の活動をささやかながらお手伝いしております。

このたび、高校時代からの旧友である三井千恵子さん（アルコ・イリス事務局山梨オフィス）のご紹介で、サント・フローリアンの活動を知ることができ、応援させていただきました。夕陽がゆっくりと沈んでゆくのに反比例して、ヴァイオリンの、チェロの響きが徐々に力強く躍動していくのを聴きながら、ささやかながら応援させて頂いて本当に良かったと、しみじみ思ったことでした。

サントの皆様のみますますのご活躍を心から期待しております。また、サントを支える皆様方の高い品性に心からの敬意を表したいと存じます。

コンサートを終えて

友の会会員 八ヶ岳大泉村 三井 千恵子

暗いニュースが毎日伝えられ、経済の不況低迷の昨今。11月15日の八ヶ岳高原音楽堂でのサント・フローリアン・ピアノ三重奏団は、一つの宇宙空間の中に「時」とどめ、音楽と自然の風景の中に魅了させてくれました。素晴らしい時間と空間を共有した感激が会場のレセプションには満ちあふれており、私は、このコンサートを企画させて頂き心から感謝です。友の会事務局を始め、多くの皆様にご世話をかけました。そして遠くから又近くから参加して下さいました皆様にも、とても楽しい想いを込めて、本当に有難うございました。

幸せな気分です。冬籠もりに入らせて頂きます。

11月13日浦和チャリティコンサートのお手伝いをして

友の会会員 外谷 千春

11月13日骨髓バンクキャンペーンコンサート最終日の浦和会館に来て頂いた皆様からの声をご紹介します。

「すごい人達！人間性が伝わって来る。あの演奏を聞いて風邪気味だったのがスッキリ治ってしまった。自分が今迄出会った中で最高のピアニスト」（興奮気味の調律師 T さん）

「三人の息がピッタリ！日本人として日本人の音楽をやることをちょうど考えていたので武満の作品に一番感動した。会ってお礼を言いたかった。」（ジャズマンの主人）

「間近で演奏者の手元まで見られ、迫力があり素晴らしかった。」（主婦 M さん）

「忙しい日常を忘れさせてくれる素晴らしいコンサート。会場が小さかったのもよかったし、3人の解説のお話なども良く、思っていた以上の満足感でいっぱい。特にシューベルトはピアノトリオの良さみたいなものを十分堪能させてくれた熱演。単に技術的な素晴らしさや音楽の美しさだけでなく、そこに込められた祈りのようなものさえ伝わってくるようで、行って良かったと思った。」（教師 T さん）

「とても楽しかった。親子で素敵な時間を過ごすことができた。」（主婦 M さん）

「とても素晴らしかった。一緒に行った友人は影響され、中断していたピアノを再開した。」（笑顔がすべてを語っていた学生 K 君）

サント・フローリアン・トリオの皆さんのコンサートは、いつも演奏者と聴衆とがいったいとなり、今回は二階席まで埋め尽くされました。譜めくりさせて頂いていても、聞き惚れてめくるのを忘れてしまいそうです。シューベルトは、レクイエムにも似た響き……。アンコールのハンガリア舞曲は、このチャリティコンサートをしめくくる喜びにあふれた躍動感、明日への希望のかけ橋のようでした。

このコンサートの主旨に賛同して集まって下さった多くの方々へ感謝しています。この日の事を、素晴らしい音楽家達のことを語っていきましょう。

三戸さん、小澤さん、フィリップさん、どうもありがとう！！

10月14日「津田ホール、ベートーヴェンチェロソナタ全曲演奏会」

チェロ：小澤洋介、ピアノ：ティモシー・レーベンスクロフト

去る10月14日、東京、津田ホールにおいて、洋介氏の3年ぶりのリサイタルが行なわれました。私にとっては10月10日に行なわれた公開総練習にも参加し演奏を目前で聴き、そして当日、満員の津田ホールの緊張感の中での本番も聴いて、とても心にのこる演奏会となりました。

世界的にもあまり類をみないベートーヴェン・チェロソナタ5曲全曲という意欲的なプログラムで、その模様を先号のモーツァルトに続いて会員の志賀紳氏のお手紙を抜粋でお届けします。紙面の都合で全部掲載できないのが残念です。(神谷)

特別寄稿

友の会会員 志賀 紳

私は音楽を聴いても別のことを考えてしまうようです。この夜はましてベートーベンなので、心を励まして出かけたのでした。単に素晴らしかった、と言えばウソになるでしょう。この日持ち帰ったものは、重苦しさもともなった複雑な充実感なのでした。その中には、自分はもう向き合わなくてもよくなったはずの深題を、もう一度考えなくてはならないのかという当惑もまじっているのです。当たり前のことかもしれませんが、私は、ベートーベンが近代合理主義精神の権化の一人であることを身に染みて感じさせられたわけです。

一曲めは、絢爛たるピアノの音(いったいあれが18、9世紀境の音でしょうか?)に反撃を感じたり、いたるところで才能をひけらかして、自分を懸命に売り込んでいる若きベートーベンが可愛く思えて、曲そのものよりその方が面白かったりしたのでした。二曲目は、一転して息詰まるようでした。こんな不機嫌な内面的な曲が、よくまあ室内楽として成り立ったものだと思いました。むしろ、こんな曲を聴く聴衆層が当時のヨーロッパにはあったのかと驚いたり、聴衆を不機嫌にするのも自己顕示のやり方だと、この強引な若者を憎たらしく思ったりしました。しかし、全曲を聴いた後少し考えが変わりました。この聴衆はゲーテの読者なのでした。この中には、理性に照らしてこの曲(あるいはこの若者の作品)は優れていると力説した人たちがいたにちがひありません。このような曲と聴衆との関係を考えて、ライブニッツからゲーテに至るドイツ合理主義の精神的風土がなかったら(モーツァルトはともかく)ベートーベンのような芸術家は現われなかったらと思うのです。

三曲目は文句なしに素晴らしいものでした。私もこころがゆっくりひろげられていくのを感じ、豊かな、幸せな気持ちになって聴きました。こういう均整の取れた澄明な芸術に触れた

のは久しぶりです。この曲は、ジャンルを越えて古典主義の芸術の最も美しい作品の一つではないでしょうか。演奏もとても良いのでした。チェロの音も豊かに響き、自然な抑制のきいたピアノの音も美しく、演奏者同士の心が溶け合って素晴らしいのでした。楽章の間に小澤さんがティモシーさんに目顔で笑いかけた顔も、単に合図とは思えず、本当に幸せそうで美しかったのでした。(私はここでゲーテと、あの美しい「ヘルマンとドロアテ」を思い出したのでした。)

しかし四曲目。小澤さんは「耳聾いになってから、ベートーベンには自由になった。」と言われましたが、まあ、何という自由でしょう!「聴衆を楽しませること」からも、彼は自由になっているようです。迫力はあるが楽しさには程遠い曲です。どうもこの時、この人は華やぎまたは色気というようなものは、芸術の重要な構成要素ではないと考えていたようです。そして、彼が何かに没頭していた結果、音楽とは別のものを聴かされている感じでした。フォルテが多すぎるのも傷ましい感じがします。

しかし、何といっても私にとってこの日の圧巻、とんでもない収穫は五番目の曲でした。試行錯誤の時は過ぎたのでしょうか。とくに、第三楽章はずごい力を持っていました。ベートーベン、確固とした方法によって、圧倒的な説得力をもって論理を構造的に積みあげています。彼が近代合理主義の権化の一人だと痛感したのはこの時です。(バッハのフーガとは違う時代精神の建造物です。)感動しながらも、ちょっとかなわない気持ちも起こったのでした。最後まで、やや旧来型のカノン(というのでしょうか?全曲の中でも印象に残るほど美しい部分)が来ます。しかし、これは明らかにやや異質であり、収まりがつかなくなって、彼は強引な力技で曲を終えたようです。締切に追られたからでしょうか。しかし、こんな荒っぽいやり方に、私はかえってほっとしたのでした。(抜粋)

コンサートのお知らせ

サント・フローリアン in スイス

ヴァイオリン：三戸素子 チェロ：小澤洋介 ピアノ：フィリップ・ヤング
1月10日(日) ヴィンタートゥール市立ホール 5:00pm

スーク：エレジー
ラベル：ピアノ三重奏曲
シューベルト：ピアノ三重奏曲第2番

クライネス・コンツェルトハウス Vol. 5

三戸素子、山田耕司(Vn) 小山貴之(Vla) 小澤洋介(Vc)
藤田乙比古、萩原顕彰(Hr)

2月5日(金) 上野 奏楽堂 PM 6:30

ドヴォルザーク：弦楽五重奏曲 第2番 ト長調 作品77
モーツァルト：ディベルティメント 変ロ長調 KV287
「ロードロン・セレナーデ第2番」

お知らせ

室内楽シリーズ、クライネス・コンツェルトハウスによる《事前曲目解説 FAX 配信サービス》を始めます。配信ご希望の方は事務局まで FAX 番号をお知らせ下さい。このサービスはコンサートの聴きどころと、当日のプログラムの内容を事前にお伝えします。

友の会、ただいま会員 約170名

友の会もスタートして2年あまり。会員は現在、約170名です。11月には福島、埼玉の骨髄バンクのボランティアの皆様一挙30人ご入会いただきました。この他にも続々新会員が増えています。当面の目標200人を目指し、新会員のご勧誘また、会員のご継続、どちらもよろしくお願い致します。

年会費 一口 1,000円

郵便振替口座 00260-1-13926

加入者名：

「友の会 小澤洋介・三戸素子・フィリップ・ヤング」

上記の口座までお振込ください。

また、年会費の切れました会員の方には友の会ニュースと一緒に振込用紙を同封させていただいております。



小澤洋介、三戸素子、P. ヤング 友の会ニュース 第12号



特別寄稿

9月25日 「イギリス館のモーツァルト・ヴァイオリンソナタの夕を聴く」

クライネス・コンツェルトハウス〈モーツァルト〉Vol.2

ヴァイオリン：三戸素子、ピアノ：クリスティーナ・ヴェナー

友の会会員 志賀 紳

私はあまり演奏会には行きません。この夜は、モーツァルトを三つも聞くのだという気の重さと、三つも聞ける気のはずみの両方に挟まれて、イギリス館の門に入ったのでした。

二曲め(35番K V 379)は、はじめのピアノの音から感動しました。野性をひめたすごい曲です。魂の新しい認識をひらいてくれる曲と演奏に感謝します。ヴァイオリンとピアノだけであれほど厚く深い世界が表現できるのも驚きでした。また、面白かったのは第二楽章のヴァイオリンのピチカートの場面でした。ヴァイオリンのピチカートがあんなに豊かな音楽的ポテンシャルを持っているとは初めて知りました。そして、あの部分の洒落ていたこと！ピアノとピチカートのかけ合いが「あれっ」と思ってもまだ続き、聴き手をじらす。トーンの微妙な変化にそそれながら、こちらは興奮を高め、いつ主旋律がはじまるかとスリルと期待にかたずをのむ。主題に戻ったときの解放感もすばらしいものでした。演奏者と聴き手が、からかい、からかわれて、一緒に音楽を創っていくという、室内楽のアンティームな楽しさの一つを存分に堪能したわけです。ジャズでは、いまでもこれが最高の楽しみの一つです。私は、大好きなデイブ・ブルーベック「テイク・ファイブ」の名場面を思い出していました。三戸さんは「レコードのない時代の人には、ある曲の演奏を聴くのは一回限りだった。だから主題を印象づけるために、楽章の前半を後半で繰り返した。今夜は省略せずに弾きます。」と言われました、このピチカート部分にも、モーツァルトの同じサービス精神(と、いたずら心)が働いているのでしょうか。また、ジャズが、カノンやフーガの忠実な後継者である不思議さの理由に思い当たりました。

一曲め(32番K V 376)は、「ヨーロッパでは18世紀にも音楽がこんなに早かったのだろうか」と思ったり、低音部に移るときのヴァイオリンの音が気に入って、そればかり待ったり、三曲め(40番K V 454)は細部の面白さにやたらひかれたり最後の二三分はさすがだと思ったり、ややとりとめなく楽しんだのでした。そして、演奏者の表情や動きを見るのも、室内楽の楽しみの一つだと知ったのでした。クリスティーナさんの表情は解りやすいように思われましたが、三戸さんののは複雑です。こちらがあまり気にならない個所でも、三戸さんが深い表情で弾いているのを見ると、「ああ、ここにはきっと何かがあるんだ」と思うことが何度もありました。芸術の理解には馴れと訓練が必要なのは知っています。そういう、いっそうの芸術の楽しみの世界に、私を引き込んでくれた(らしい)三戸さん、クリスティーナさんに、本当に感謝します。

ベートーヴェン全曲演奏会を終えて

10月14日 東京・津田ホール

小澤洋介

友の会の皆様、このたびは本当に力強いご支援を有難うございました。今回のコンサートの主眼は初期、中期、後期とにわかれていくチェロソナタを通して奏くことにより、ベートーヴェンのまた新たな一面を発見したいということ、すなわちベートーヴェンがどのように変化していったかを体験することにより、ベートーヴェンについてもっと知りたいということでした。

とにかく、5ヶ月前最初にロンドン郊外にて演奏した時は、本当に不安でした。ベートーヴェンのチェロソナタは第3番以外あまりひかれることがなく、一般に地味なソナタとされています。これを全曲通してひいたら、お客様のほとんどが退屈で寝てしまうのではないか、と思ったからです。いかに一曲一曲を磨いてクオリティーを上げて、同じ作曲家のしかもチェロとピアノだけで2時間20分という時間の間が持てるのだろうか、と考えました。

しかし最初の演奏会を行なった後での感想は「想像以上に演奏するのが大変なプログラムだけど、これは、できる!」というふうにはピアニストのティムと意見が一致しました。その後何度かロンドンを往復し、ティムとリハーサルを重ねるうち、初期から後期へ移っていく変化の素晴らしさをますます認識するようになりました。そして、すべての生き物が四季を通して、また一生を通して変化していく美しさを、演奏会で表現できないものかと話しあい、努力しました。

ベートーヴェンのチェロソナタはこれをもってしばらく冬眠状態にはいります。また何年か先、新しく変化したそれを聴いていただけたときの来よう、精進していきたいと思っております。

どうぞ、皆様の暖かいご支援を今後ともよろしく願いいたします。

11月15日(日) 八ヶ岳高原音楽堂 JR日帰り情報

サント・フローリアン三重奏団

「友の会」の今年のピックイベント、友の会主催、八ヶ岳高原音楽堂サントフローリアン三重奏団のコンサートが近づいて参りました。深秋の八ヶ岳の麓、野辺山高原でのコンサートです。たくさんのご参加をお待ちしております。また、コンサートは終演後のレセプションも含めて18:00に終了いたしますので、列車にて東京方面からの日帰りも十分可能です。次の頁に時刻表を掲載いたしました。

次ページ参照

東京方面より八ヶ岳高原音楽堂への 日帰り時刻表

東京 野辺山				野辺山 東京			
[あずさ55号]				[スパー-あずさ16号]			
JR中央本線	新宿	発	10:30	送迎バス	高原音楽堂	野辺山駅	
	八王子	発	11:03	JR小海線	野辺山	発	19:26
	小淵沢	着	12:36		小淵沢	着	19:57
乗換え				乗換え			
JR小海線	小淵沢	始発	12:39	JR中央本線	小淵沢	発	20:15
	野辺山	着	13:12		甲府	着	20:52
送迎バス	野辺山駅	高原音楽堂		乗換え			
野辺山駅より上記の野辺山着の時間に送迎バスを準備しております。							

JR特急はぜひ事前にご予約下さい。



コンサートのお知らせ

サンクト・フローリアン三重奏団

骨髄バンク秋のキャンペーン

- 11月10日 新宿モノリス・アトリウム 12:20
 11月10日 東京、祐天寺 聖パウロ教会 19:00
 11月12日 福島県
 11月12日 松戸 森のホール21 19:00
 11月13日 浦和バプテスト教会 18:30

前売券 ¥3,000 当日券 ¥3,500

お問合せ/全国骨髄バンク推進連絡協議会 03-3356-8217

今年で7年目になるサンクト・フローリアンによるキャンペーンです。収益金はすべて骨髄バンク事業推進の為に活用されます。

サンクト・フローリアン三重奏団 in 八ヶ岳

ヴァイオリン：三戸素子 チェロ：小澤洋介 ピアノ：フィリップ・ヤング

11月15日(日) 八ヶ岳高原音楽堂 3:00pm

シングル券 ¥7,000 ペア券 ¥13,000

ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲第3番 八短調作品1の3
 武満 徹：ピトゥイン タイズ
 シューベルト：ピアノ三重奏曲第2番 変ホ長調 作品100 D929

巨匠リヒテルや武満徹が愛した八ヶ岳の麓、野辺山高原にある八ヶ岳高原音楽堂。
 深秋の日曜の午後、皆さんと一緒に自然と音楽を満喫しましょう。
 我々、友の会が主催します。

クライネス・コンツェルトハウス《モーツァルト》 Vol.3

三戸素子、山田耕司(Vn) 小山貴之、二宮隆行(Vla) 小澤洋介(Vc)

12月8日(火) 横浜 イギリス館 PM 7:00

友の会割引有

モーツァルト：弦楽五重奏曲 第1番 変ロ長調 KV174
 モーツァルト：弦楽四重奏曲 第23番 へ長調 KV590
 モーツァルト：弦楽五重奏曲 第5番 二長調 KV593

クライネス・コンツェルトハウス Vol. 5

三戸素子、山田耕司(Vn) 小山貴之(Vla) 小澤洋介(Vc)

藤田乙比古、萩原顕彰(Hr)

2月5日(金) 上野 奏楽堂 PM 6:30

友の会割引有

ドヴォルザーク：弦楽五重奏曲 第2番 ト長調 作品77
 モーツァルト：ディベルティメント 変ロ長調 KV287
 「ロードロン・セレナーデ第2番」

友の会、ただいま会員 約130名

友の会もスタートして2年あまり。会員は現在、約130名です。

新会員のご勧誘また、会員のご継続、どちらもよろしくお願い致します。

年会費 一口 1,000円

郵便振替口座 00260-1-13926

加入者名：

「友の会 小澤洋介・三戸素子・フィリップ・ヤング」

下記の口座までお振込頂ければ結構です。

また、年会費の切れました会員の方には友の会ニュースと一緒に振込用紙を同封させていただいております。

インターネットのホームページに友の会バックナンバーが掲載されています。http://www02.so-net.ne.jp/ ozawa-y/

小澤洋介、三戸素子、P. ヤング 友の会ニュース 11号**10月14日小澤洋介チェロリサイタル 於津田ホール**

小澤洋介リサイタルのチラシをお届けします。今回の共演はロンドンからのピアニスト、ティモシー・レーベンスクロフト氏。会場は都内屈指の室内楽ホール、津田ホール(500席)です。JR千駄ヶ谷駅前まで交通も至便です。いつも意欲的なプログラムでリサイタルに臨む洋介氏ですが、今回は超ハードな、一晩でベートーヴェンのソナタを5曲全部ひいてしまおう、というものすごいものになりました。いってみれば普通のリサイタルより40%増しの内容です。コンサートの所要時間は約2時間半だそうです。リサイタル後、氏の体重がどこまで減っているか、期待されます。

このたび小澤洋介氏のご好意で、友の会会員は同封のハガキで直接お申込みになれば、¥4,000が¥3,200、の20%offでチケットがご購入になります。皆様、お誘いあわせの上どしどしお申込み下さい。小澤洋介氏を支援して、リサイタルを成功させましょう。

小澤洋介ゲネプロ特別公開へのお誘い

上記でご案内しましたように、小澤洋介さんは10月14日ベートーヴェンのチェロソナタ全曲を一晩で演奏するという、世界でも類をみない画期的なリサイタルに、3年ぶりに満を持して登場します。

<なぜ一晩でなのかは、同封のチラシをご覧ください。きっと「なるほど!」と納得していただけると思います。> そこで、日頃ご支援頂いている会員の皆様だけに、本番の演奏とそのゲネプロ(総練習)とを両方聴いていただけるよう、ゲネプロの特別公開を企画いたしました。会場は、いつも彼等が口角泡を飛ばし、髪を振り乱して音楽を創っている自宅音楽室です。

演奏会場では知り得ない音楽創りの現場を体験してみませんか。新しい楽しみが待っているかも知れません。終了後には、洋介、ティモシー両氏に三戸素子さんも加わっての懇談会も予定しています。この際、色々な質問を彼等にぶつけてみてください、音楽室には、20人ほど入ります。ふるってのご参加をお待ちしています。

日時：10月10日(土曜日)15:00～

会費：無料

場所：小澤洋介・三戸素子自宅音楽室

秋津駅北口(西武池袋線)徒歩1分、
新秋津駅(JR武蔵野線)徒歩7分

参加ご希望の方は、事務局へ前日までにお申し込み下さい。TEL、FAX、また同封の小澤洋介宛て、リサイタルチケット申込みのハガキに「ゲネプロ参加希望」とお書きそえ下さってもいいそうです。地図をお送りします。

本番演奏とゲネプロをあわせて聴けるという機会はあまりないはずです。きっとお楽しみいただけるとおもいます。この日残念ながら参加できない方も、10月14日にはぜひお出かけ下さい。チケットお申込みは、同封のハガキでどうぞ。当日、会場受付では会員¥500割引となります。

友の会主催コンサート趣意書のご紹介

11/15の友の会主催、八ヶ岳高原音楽堂でのコンサートは、友の会ニュース10号でもお知らせしましたように、アサヒビールの協賛がとれました。その際の趣意書に書きました文は、私たちの心からの願いです。事後で恐縮ですが、その文をここに掲載させていただきます。皆様のご賛同を得られれば幸いです。

このたび11月15日(日)に、故武満徹が音楽監督を務め、世界のトップアーティストから愛されてきたホール、八ヶ岳高原音楽堂において、国際的に評価の高いサンクト・フローリアン三重奏団の演奏会を企画しています。

サンクト・フローリアン三重奏団は12年前、ヴァイオリンの三戸素子、チェロの小澤洋介とピアノのフィリップ・ヤング(中国系アメリカ人)によって結成され、以来メンバーの変動もなく年間20余のコンサートをヨーロッパ、アメリカそして日本で行って来ました。その真摯で情熱的な演奏姿勢は、いつも私達にクラシック音楽の素晴らしさ、貴重な音楽空間を体験する喜びを与えてくれます。彼等の音楽をこよなく愛する私達は、彼等にもっと良い環境のもとで最高の演奏をしてもらいたい、と考えています。この八ヶ岳高原音楽堂は、そんな私達の願いの第一歩です。

私達は、外来演奏家や、マスコミによって消費されるためにだけ作られてきたスターを重んじるよりも、音楽を愛する私達の手で、これが日本の音楽文化だと誇れるようなものを、演奏家と共に築いていきたいのです。彼等を支援することは、現在の日本の音楽状況の主流から一歩でも脱却することになると信じています。

ぜひ、私達の考えと、彼等の演奏をご理解いただき、ご賛同、ご協力を賜るよう、よろしく願い申し上げます。

1998年6月

小澤洋介、三戸素子、P.ヤング友の会
代表 神谷まさ子
八ヶ岳支部 三井千恵子

横浜 クライネス・コンツェルトハウス

《モーツァルト》Vol. 2

イギリス館そして東京公演も急遽決定!

三戸素子、K. ヴェーナー、ヴァイオリンソナタの夕

この6月からスタートした横浜イギリス館でのクライネス・コンツェルトハウス《モーツァルト》。先号ニュースに掲載された会員坪井薫さんの文章に魅せられた方も多いと思います。港の見える丘の洋館、イギリス館での趣のあるコンサートは9/25(金)です。また今回、クリスティーナさんのせっかくの来日に、一回だけでももったいないと、渋谷の日本ピアノ調律技術学院のご好意で、9/23(祝)当学院の大教室を提供していただけることになりました。

横浜では遠すぎて、という方に朗報です。

友の会割引有

友の会、ただいま会員約130名

友の会もスタートして2年あまり。会員は現在、約130名です。

新会員のご勧誘また、会員のご継続、どちらもよろしく願い致します。

年会費 一口 1,000円

郵便振替口座 00260-1-13926

加入者名:

「友の会 小澤洋介・三戸素子・フィリップ・ヤング」

下記の口座までお振込頂ければ結構です。

また、年会費の切れました会員の方には友の会ニュースと一緒に振込用紙を同封させていただいております。